

全国学力・学習状況調査の結果より

敦賀市立角鹿小学校

6年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた角鹿小学校児童の成果と課題についてお知らせします。今回の調査で見えてきた課題を克服し、成果をさらに伸ばしていけるよう、学校全体で取り組み、さらなる向上を目指していきます。

1 教科に関する結果から

◎国語

今回の調査から、主述を押さえ、文章を読み取る力が長けていることが分かりました。また、自分の考えや感想を書く力、まとめる力も育ってきています。一方で、漢字の書き取りの定着が不十分であることや、記述式の問題において無答が多いという課題も見えてきました。

【特に正答率の高かった設問】

- 相手の反応に合わせた話し方の工夫に気づく問題
- 事実と意見を区別しながら、自分の考えが伝わるように文章を書く問題
- 主語と述語の関係を捉える問題
- 登場人物の相互関係や心情について描写を元に捉えることができるかを見る問題

【課題】

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうか見る問題（下記の問題）

【対策】

- ・教科学習や総合学習のまとめを紙面上やタブレット上で行うだけでなく、会話を通した交流の時間を設けます。
- ・相手の発言に対して、伝える内容を自分で適切に選択しながら会話する場をより多く設定していきます。

正答
4

- 三 和田さんは、「オンライン交流の様子の一部」をふり返り、発言⑤のところで、「和田さんのメモ」が役に立ったことに改めて気づきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。
 - 2 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。
 - 3 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。
 - 4 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

問題

【オンライン交流の様子の一部】



はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。

⑤

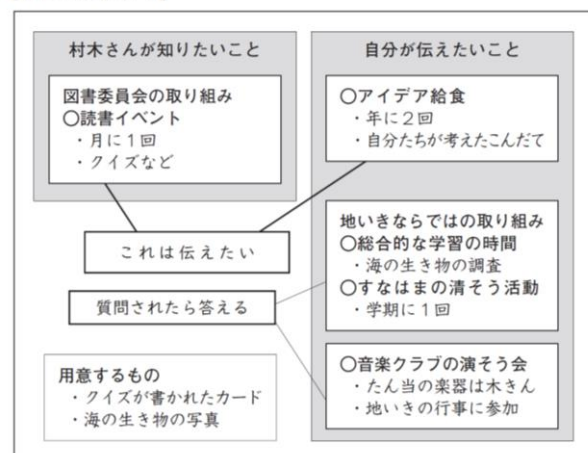
えっと…（【和田さんのメモ】を見返す）、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。



二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つ詳しく教えてください。

～（交流が続く）～

【和田さんのメモ】



◎算数

【特に正答率の高かった設問】

- 計算の性質をもとに計算の仕方を考え、式や言葉を用いて求め方を記述する問題
- 見取り図について理解し、書くことができるかどうかみる問題

【課題】

球の直径の長さ^①と立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと

(以下の問題①)

速さの意味について理解すること

(以下の問題②)

【対策】

- ・図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質を基に、数学的な用語を正しく用いて活用する場面を設定します。
- ・必要な情報を抜き出すことができるよう、問われていることを確認した上で、情報を整理する場面を設けます。
- ・秒速、分速、時速など場合に合わせた単位量あたりの計算ができるよう、日常生活の問題と関連付けながら理解を深めます。
- ・「変化と関係」の領域については、過年度の内容を振り返りながら、単位量あたりの大きさや、割合の内容について理解を深めていきます。



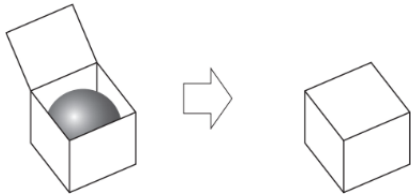
- ・算数の学習においては実生活との関連を図りながら丁寧に図やグラフに向き合い、課題に真摯に向き合う態度を育てます。

問題①

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



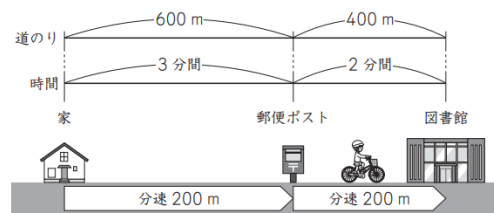
この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

(正答) $22 \times 22 \times 22$

ここでは、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした箱の一辺の長さが、ボールの直径の長さ^①と等しくなることを捉えることが必要である。直径が一辺と等しくなるという点に気づくことができず、円周率を用いて計算しようとする回答が多く見られた。

問題②

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前^②の道を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5 分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは 600 m で、3 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは 400 m で、2 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

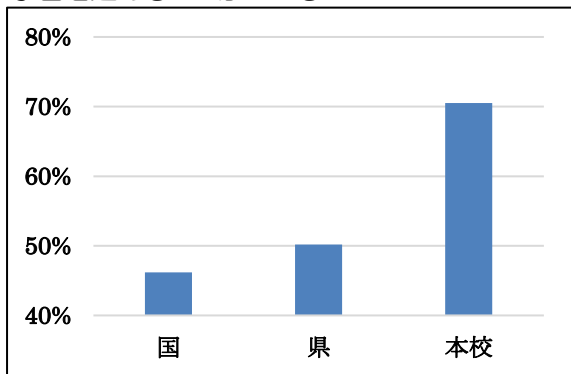
家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。答えを書きましょう。

(正答) 分速 200 m

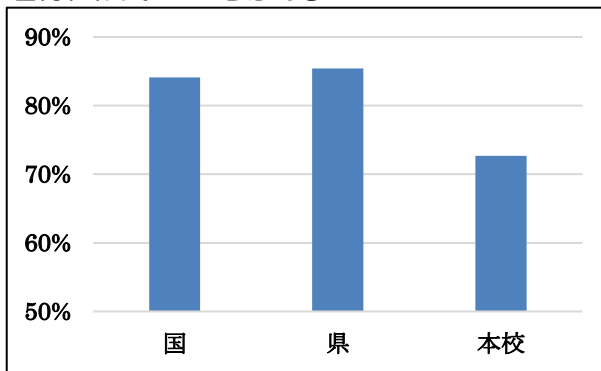
本設問では、速さの意味について理解しているかどうかを問うている。

ここでは、家から図書館までの速さを求める場合には、この間の道のりと時間を問題から読み取り、それらを基にして速さを求めることが必要である。

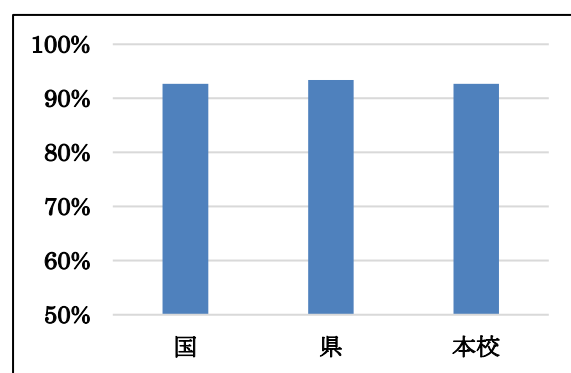
2 学習状況調査〔質問紙〕の結果から
ICT 機器を活用し、友だちと協力しながら
学習を進めることができる。



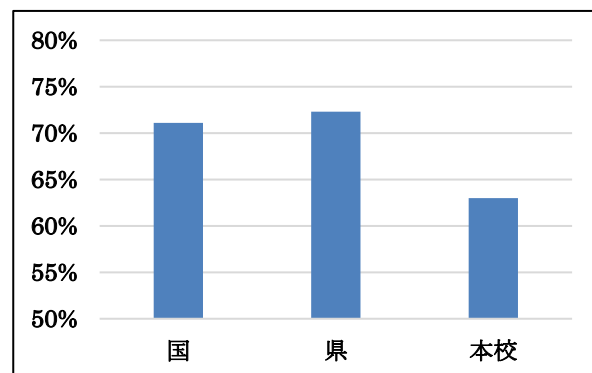
自分には良いところがある。



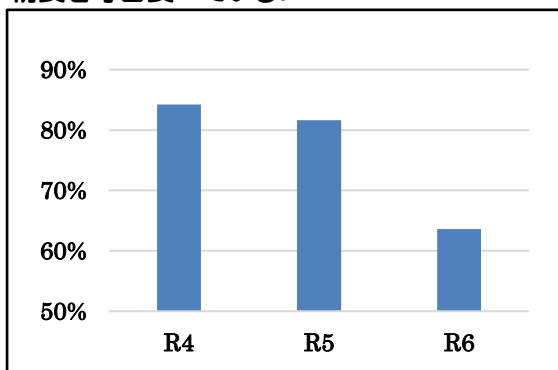
人が困っているときは、進んで助けている。



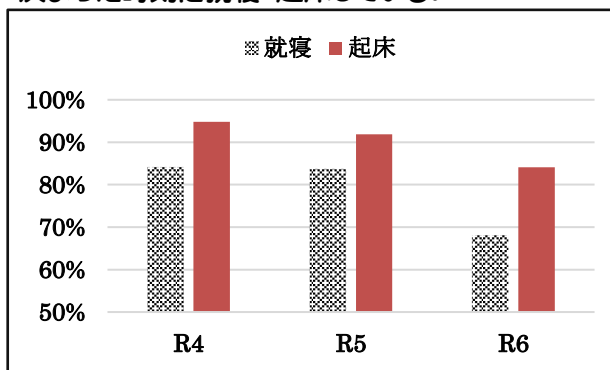
人の役に立つ人間になりたい。



朝食を毎日食べている。



決まった時刻に就寝・起床している。



◎ 本校児童においては、「友だちと協力しながら学習を進めることができる」「互いの意見の良さを生かして解決方法を決めることができる」といった項目において良好な結果が見られます。これは、1人1台端末の積極的な利活用をすすめていることに加え、校内研究の柱の一つとして高学年を中心に「自由進度学習」に取り組もうと歩みを始めていることによる成果と考えます。また、タブレット端末を活用する利点として「分からないことがあったときに、すぐ調べることができる」「友だちと考えを共有したり比べたりしやすい」を挙げるなど、協働して学ぶ姿勢が身につけていると考えられます。

○ 一方で、「自分には良いところがある」の項目で、肯定的に回答する児童が減少傾向にある点が気懸かりです。「人が困っているときに進んで助けている」反面、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問においては、積極的に回答する児童の割合が低く、自己肯定感や自己有用感が低いと考察できます。伝統ある本校区の環境において、積極的に地域と関わり、人や自然とふれ合う中でスクールプランに掲げる「一人一人を大切に作る学校」の具現化を目指し、道徳教育やポジティブ教育をとおして、これからの社会を生き抜く力を育む教育活動のさらなる充実を図っていきます。

● 「早寝・早起き、朝ごはん」に代表される基本的な生活習慣について、経年変化（同学年で比較）を見ると、否定的に回答する児童の増加が顕著です。端末機器の利活用・普及の一方で、生活リズムの乱れが心配されます。今後も学校では、「スマイルール」の確認も含め、指導・声かけに努めて参ります。ご家庭でも、活動基盤となる家庭における生活リズムを整え、学校での活動に力を発揮していけますよう、ご協力をお願いいたします。

